

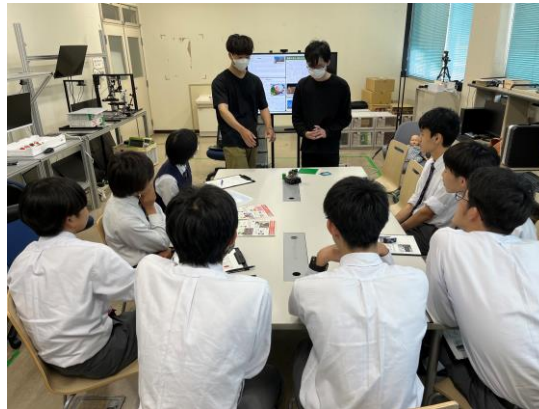


### 高校生訪問

致遠館の生徒の方々に研究室を見学していただきました！  
デモを行った学生による感想です。

今回初めてデモという形で研究紹介を行ってみたいと相手に伝えられるのだろうかと不安があったのですが、致遠館の学生が真剣に耳を傾けてくれたので自信を持って研究紹介することが出来ました。分かりやすく尚且つ興味を持ってもらえるように話す事と専門性を省略してもしっかり何をやっているかは伝えるというところのバランスが難しいなと実感しました。実際に体験を踏まえて致遠館の学生と交流を深めることで自分達も刺激をもらうことが出来たのでとても楽しかったです。移動ロボットを動かした時に高校生の目がキラキラしていて移動ロボットのくだりが一番盛り上がりました。良かったです、ありがとうございました。

執筆:江崎裕太

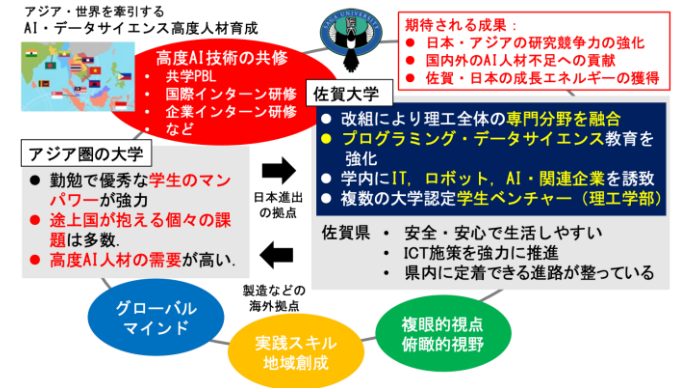


致遠館の生徒の方による研究室見学で研究紹介のデモをさせていただきました。研究を研究室外に紹介するというのは初めての体験だったので良い経験となりました。高校生の方にはスマホでYOLOのアプリを体験してもらいましたが、手や足だけでも人を認識できることに驚いていた様子でした。江崎君もYOLACTの紹介をしていて別のアプローチで物体検出について知ってもらえたと思います。一番盛り上がったものは余った時間で紹介した移動ロボットで、高校生たちに緑色の物体を持ってもらって追従させるのは反響が大きかったです。自分自身の研究も面白いものだと思ってくれるようにしていかなければいけないと思いました。

執筆:江口諒

### EPADとは？

昨年度から国際プログラム Education Program for AI and Data Science Specialists (略称EPAD) がスタートしました。このプログラムは、博士前期・後期の大学院生を対象としていて、情報分野で国際的に活躍できる人材の育成



を狙っています。日本人学生は、入試に合格後に本コースを選択することになります。文部科学省からの奨学金や、佐賀大学からの奨励金など支援も手厚く、就職にも有利になると思います。是非進学の際には検討してみてください。

執筆:福田修

私が加入しているEPADコースの学生にとっての最大の魅力は、給与型の学生研究奨励金30万円(前期・後期の年2回)が頑張ったら獲得できる点にあると思います。僕もありがたいことに受給させてもらっています。JASSOの奨学金と違い、返還の心配がなく給与型なので学費の面での気苦労がないのが嬉しいです。この制度で入学するにはTOEICスコアが650点以上必要です(2023年時点)。また、毎年度TOEICを受験しスコアを提出する必要もあります。さらに授業もすべて英語です。これからの時代、英語力は修士でも博士でも強みになると思うので強制力を持って英語を勉強できる点もかなり良いと個人的には思っています(授業が不安ならDeeplやChat GPTを活用したら全然OK)。また、こういったコースに所属していることや高いTOEICスコアは就活の面でもとてもアピールになると思います。だからこそ、これから大学院進学を希望されている皆さんはTOEICを頑張っぜひチャレンジしてみてください！

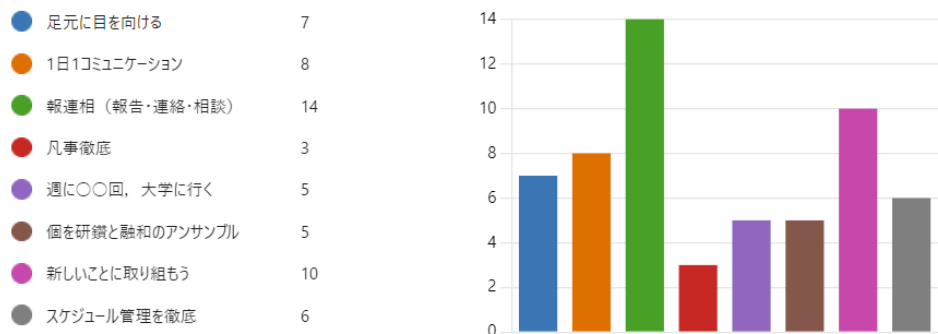
執筆:江口大雅



# 研究室の目当て

以前皆さんに回答していただいた研究室の目当てからアンケートで選択していただいた結果をお知らせします。

1, 報連相(報告・連絡・相談) 2, 新しいことに取り組もう 3, 1日1コミュニケーションが多い回答となりました。



## グルメShare

今回から、豆知識掲示板に代わり、皆さんにお勧めの食べ物・料理(飲食店or得意料理orローカルグルメ)を紹介していただきます！

”最高に美味しいチキン南蛮

～たかもとや～

筆者がおすすめするのが黒酢を使ったチキン南蛮です。酢には、夏バテに効果があると言われてます。貼付写真のチキン南蛮定食を提供してくれるお店が、佐大鍋島キャンパス近くにある「たかもとや」です。この店は、熊本が発祥で、九州(長崎、沖縄を除く)でチェーン展開をしています。佐賀には、一店舗しかなく今回の紹介した店舗がそれに当たります。



次に本題のチキン南蛮定食について話していきます。まずは、値段と魅力についてです。値段は、あの量で千円でお釣りが来るくらい安いです。更には、チキン南蛮定食のご飯、味噌汁、タルタルソースがおかわり自由なところが魅力的です。筆者は、いつもご飯三杯、味噌汁二杯、タルタルソース二回ぐらいはおかわりしますね。そして、一番大事なのが味です。チキン南蛮の衣はサクサクで、鶏肉にはしっかりと下味がついており、黒酢を使った少し辛味がある万能タレが食欲をそそります。少し酸味がきついと思う方は、タルタルソースをつけると味がマイルドになって食べやすいです。タルタルソースは、ザ・タルタルソースって感じではなく、ゆでたまごだけ?のようなシンプルなものになっています。

最後に、筆者は日々の生活であり美味しいとは言えない方なのですが、このチキン南蛮定食を食べた瞬間美味いと思いました。読者の方もよかったら一度行ってみてください。!

執筆:松岡 龍鬼(山口研)

## 先生コラム

～皆本先生との対談(その2)～

教員の山口です。こんにちは。先日、個人的に興味がありましたので皆本先生にお願いして皆本先生と山口研で対談してみました。皆本研とCPS研との違い等が分かればと思います。

【対談】

山口先生:DS研は皆本先生, 廣友先生, 木村先生の3人で研究している。

皆本先生:基本的にはばらばらに研究している。木村先生とは数値計算のシミュレーション部分で重なるので、そこは一緒に研究している。

山口先生:DS研で合同ゼミを開催している?

皆本先生:特にしていない。中間・卒論発表前に1回ずつ開催するくらい。そこで意見交換する形。学生部屋は3研究室同じで学生同士仲良くしている。

山口先生:飲み会などは?

皆本先生:このご時世だからねえ。今はやっていないけど、コロナ前は最初と最後に飲み会していたね。

山口先生:皆本先生から見てCPS研の印象はいかがですか?

皆本先生:いろいろ幅広く作っているなという印象がある。サイバーとフィジカルの行ったり来たりを積極的にやってくると面白いかなという印象。

山口先生:サイバーフィジカル研ですからね。皆本先生:そうそう。サイバーだけで閉じるともったいないよね。サイバーの中でいっぱい事故起こして自動運転に使うとかね。ドローンとかもサイバーの中でいくらでも失敗できるから面白そう。

皆本先生:うちもホロレンズでMRというのも考えているけど、意外にMRは目の負担が大きい。使ってみると気分が悪くなる。結局、使ってもらう人に負担が少ないとなると従来の画面上に内視鏡の画像を出す方がよっぽど良い。新しい装置を付けるよりも処理で勝負したい。処理で勝負すると同時に、例えば今、医者育てるうえでどうして癌かが説明できない。どうして癌かが学生に教えられない。優秀な人は見たらわかるからで、そこを言語化しないと学生を育てられない。言語化できないならせめて数式に置き換えて、数式に置き換えたなら数式を経由して言語化できる。それで学生を育てられる様にしないとイケない。(つづく)

執筆:山口 暢彦



## 編集後記



広報係の河原です。今回の背景画像は紫陽花の写真です。現在、背景素材として使ってもいい画像を募集中です。来月号で使う夏らしい写真があれば、ぜひ紹介させていただきます!

目当てや定期購読雑誌についてのアンケートの回答、ありがとうございました! 今後も、より良い研究室・広報誌になるよう、頑張っていこうと思います。